

【水を使うもの水で生きるもの】

福岡県

北九州市立尾倉中学校

三年 岩本 歩 寿 瞳

私は海も海の生き物もスマートフォンケースや待ち受けにするほど大好きだ。水は私たち人間が当たり前に使っているのと同じように海の生き物も私たち以上に水に支えられて生きている。蛇口をひねれば水が出てくる生活の中で、水がどれだけ大切で必要な資源なのかについて意識する機会はきつと少ないだろう。私は、水の重要さと同時に私たち人間が無意識のうちに海の生き物に与えている影響について海の生き物の視点から考えたい。

人間にとって水は「使うもの」であるが、海の生き物にとって水はただ使うだけではなく「生きる場そのもの」だ。魚や貝は水の中で呼吸や移動をして生きている。魚の中でもサメやクジラ、マグロなどは小さな魚を食べて育ち、小さい魚は水中で発生するプランクトンを食べて育つ。海の中では食物連鎖が成り立っているが、プランクトンが何らかの影響で減少したり魚にとって悪影響となったりしたらどうだろうか。

プランクトンは日光が遮られて水温が下がると減少してしまうし、何気なく捨てられたゴミが栄養となり、逆にプランクトンが増えすぎてしまうこともある。プランクトンが増えすぎると魚は大量に死んでしまうのだ。プランクトンの死骸を分解する生物が酸素を大量に消費して水中の酸素が減り、魚は呼吸ができなくなって貝も弱ってしまう。

このように、私たちはその水を知らずのうちに変えてしまっている。生活の中で出る排水やゴミは海の生き物にとって環境を大きく変化させる。私たちにとってほんの小さな出来事でも、海の生き物にとっては生死に関わる問題となってしまうことがある。

さらに、近年では水温の変化によって、住む場所を変えなければいけない魚が増えたり、サンゴが白くなってしまう現象も起きたりしていると問題視されていたのを見たことがある。このような変化も、水の状態が変わることですごく起きているのだと知った。海の生き物は水の中で生きているため、その

影響を直接受けてしまう。だからこそ水の変化は私たちが思っている以上に魚に影響しやすく、時には命を奪ってしまう場合もある。

そんな事故を防ぐためにも、私たちは水の大切さや生き物の接し方を見直す必要があるのではないだろうか。高さのある建物によって、日光を遮ってしまうとプランクトンは減少してしまうし、ゴミによる環境の変化など、今起きている問題の多くはどれも海の生き物にとって悪影響であり、私たち人間が行動してしまっていることだ。

しかし、これらはどれも意識することで防ぐことができるものでもある。水を無駄にしないことはもちろん、環境を汚さないように意識することが重要だ。一人の行動による変化はあまりなくても、数万人の人が行動にうつすことができれば大きな変化に繋がるのではないかと私は思う。

水は人間だけのものではない。水によって生きている生き物が多くいる。水は私たち人間にも、海の生き物にも、陸で生きている動物にも欠かせないもので、とても大切で必要な資源である。水の重要さと大切さを理解し、必要な資源を守っていけるのは私たち人間なのではないだろうか。